JASE
現代性教育研究ジャーナル
2015年
No. 55
2015年10月15日（毎月15日）発行
日本性教育協会
THE JAPANESE ASSOCIATION FOR SEX EDUCATION

〒112-0002 東京都文京区小石川2-3-23 春日尚学ビル Tel.03-6801-9307 Mail info_jase@faje.or.jp URL http://www.jase.faje.or.jp 発行人 鈴木 勲 編集人 本橋道昭
© JASE. 2015 All Rights Reserved. 本ホームページに掲載している文章、写真等すべてのコンテンツの無断複写・転載を禁じます。

contents

第22回 WAS国際会議報告 …… 1
もっと知りたい女子の性⑩…… 6
性教育の歴史を尋ねる㉛…… 8
今月のブックガイド…… 9
JASEインフォメーション …… 10

■ 第 22 回 WAS 国際会議報告

性科学や性（セクシュアリティ）教育の未来を語り合い、学びあう機会に

大阪府立大学地域保健学域教育福祉学類教授
WAS 性の権利委員会委員長
東　優子

はじめに

2015 年 7 月 25 日～ 28 日、シンガポールで第 22 回 WAS（世界性の健康学会）国際会議が開催され、51 か国から 371 名が参集した。

WAS（World Association for Sexual health）は性科学（セクソロジー）に関する最大の国際学会であり、1978 年ローマ大会を初回に学術集会・国際会議を隔年開催している。

アジア・オセアニア性科連合（AOFS）をはじめとして、世界 5 大陸にはアフリカ（AFSHR）・ヨーロッパ（EFS）・南米（FLASSES）・北米（NAFSO）などの下部組織が組織されている。WAS には、国内の日本性教育協会、日本性科学会、日本思春期学会などが団体登録しているほか、個人会員として登録している臨床家・研究者などもいる。

シンガポールの新観光名所・空中プールのある「マリーナ・ベイサンズ」

開催が危ぶまれたシンガポール大会

371 名（51 カ国）というのは WAS 国際会議の最低記録である。シンガポールの人口は 550 万人でしかなく、経済格差を考慮した料金設定などもなかった

ことから、通常は多くを占めるはずの地元や周辺諸国からの参加者がほとんどいなかったのが大きく響いたものと思われる。これはWASが契約している国際会議運営会社の「指導」も影響しているのだが、確かに「数合わせ」的に参加者数を増やしても、支払われる参加登録料が少ないのでは経営は成り立たない。この緊急事態は事前に把握されており、一時は開催そのものの中止が検討されたほどである。

開会式前日の午前9時に始まった役員会議では、原因の分析や対応策が話し合われた。事前配布されていた会議次第には「休憩」の文字がなく「まさか…」とは思ったが、実際に（ランチ・タイムも含めて）休憩時間を一切とらない9時間の缶詰状態になった。

前回ブラジル大会には88か国が参加（参加者数は不明）、第20回グラスゴー（英国）大会は約900名で、第19回イエテボリ（スウェーデン）大会が約1,500名だったことと比べても、この数の深刻さがおわかりいただけるのではないかと思う。ちなみに、WAS国際会議で参加者数の最高記録を樹立したのはパリ大会だったと聞いている。高額の参加登録料に加えて海外渡航費がかさばる国際会議の開催地については、観光地としての魅力が影響することを物語っているようにも思う。

FINE CITY（罰金の都）シンガポール

東南アジアの玄関口シンガポール（正式名称はシンガポール共和国）の国土面積は小さく、東京23区とほぼ同じ広さである。人口550万人の38%が外国籍の永住者で占められており、シンガポール国籍の内訳もまた中国系・華人（74.1%）、マレー系（13.4%）、インド系（9.2%）など、文化・民族の多様性に富む。共通語（第二母語）として英語が使用されている。

2015年はちょうど「建国50周年」にあたり、8月9日の建国記念日に向けて「SG（シンガポール）50」と書かれた飾り付けが街中に溢れ、7月に入って毎週土曜日に行われているという花火やライトアップ、空軍の航空ショーのリハーサルを見ることができた。絶品シンガポールチキンライスをはじめ、文化多様なこの国での食文化は充実している。現地の人々はみな実に親切で、小さな国土に観光名所がコンパクトにまとまっており、犯罪に巻き込まれる心配もなく夜の街を散策することもができる。そんなシンガポールは、日本在住者にとっては「安・近・短」で人気の観光地である。

WAS性の権利委員会メンバー

ところで、1963年に英国から独立して数十年という短い間にアジア有数の経済拠点となったシンガポールは「ハイテク大国」でもある。今回の会場となったサンテック国際会議場はサンテック・シティと呼ばれる高層オフィスビルや巨大ショッピングセンター、レストラン街、映画館などが入る大型複合施設にあり、随所にハイテクを駆使したディスプレイが配置されていた。また、サンテック・シティの中心には世界最大級の噴水（「富の噴水」と呼ばれる）があり、風水に基づいて設計されている。内側に水が流れ落ちるようになっているのは「富が逃げない」ことを象徴しているのだとかいった説明を聞いたのだが、とにかく日本の「足るを知る」の美学からすればあからさま過ぎるように思える、「富」への欲望・執着を象徴するものが街中に溢れ、この国が効率的に経済を発展させてきたということに得心がいった。

厳しいルールと罰金で有名なシンガポールはFINE CITY（罰金の都）との異名を取る。「ガムの持ち込み禁止」や「ポイ捨て禁止」、違反すると、多額の罰金をとられることになる。「これぐらいはいいだろう」とこの国を甘くみてはいけない。1994年に起こった「フェイ事件」では、路上駐車されていた車にスプレーで落書きをするなどした米国人高校生に対して「むち打ち刑」が執行され、世界中にそのニュースが配信された。ちなみにこの国では刑事罰としてだけではなく、学校における生徒への体罰としても「むち打ち」が合法化されており、国際的人権団体の抗議の的になっている。

さらに、シンガポールでは同性愛が禁止されており、LGBTの権利擁護団体と政府との攻防戦が続いてい

る。正確には、同国には同意にもとづく男性間の行為を禁止する刑法377A条が存在しており、これを違法とする申し立てが昨年最高裁で棄却された。WAS国際会議の開催直前には、保守的なアイルランド（1993年まで同性愛を犯罪化していた国）で同性婚が認められた記念すべき日に、シンガポール政府のメディア開発庁の圧力によってあるミュージック・ビデオ（PV）が放送禁止になったというニュースが流れた。PVには30年間をともに暮らしてきたレズビアンカップルが登場するなど、婚姻の平等（同性婚）を支持する内容となっていたという。刑法377A条の撤廃については、これに反対するリー・シェンロン首相（現職）が「シンガポールは基本的に保守的な社会であり、家族は社会における基本単位である。シンガポールにおける家族とは、一人の男性と一人の女性が結婚し、子供を授かり育てあげることである」と発言している。

どの国にも闇はある。ハイテク技術を駆使したディスプレイに溢れ、おしゃれなデザインの高層建築物が立ち並び、ゴミの目立たないクリーンな街だからこそ、存在して当然だと思われるモノや人を探してしまう。しかし、今回の滞在がいかに短かったとはいえ、それとわかるホームレスや車いすに乗った障がい者を見かけなかったというのは、さすがに「不気味」である。

若手研究者の活躍

最低記録となった参加者数のなかで、目立って多かったのはオーストラリア勢で、国別で次に多かったのが私たち「日本」だった。日本からの参加には、AOFS（アジア太平洋性科学連合）日本事務局が支給している国際会議参加助成金（各10万円）の対象者5名が含まれている。

この事業は、性科学の未来を担う次世代の育成・支援を目的として数年前から実施されているもので、その対象は「日本人」に限られない。資格要件は、①当該国際会議において研究等の発表予定があること、②現に日本国に在住していること、③年齢18～35歳位までの者であること、④大学等に所属する研究者またはNPO法人等で性の領域に関わる活動を行っている者であること、以上である。

今回は、厳選な審査を経て選考された以下の5名（敬称略）が、それぞれに大変興味深い研究発表をおこなった。

- 染谷明日香（NPO法人ピルコン理事長）
  ポスター発表「日本の単位制高校における性行動と性教育効果の特徴」
- 中原由望子（兵庫教育大学大学院修士課程1年）
  「セックスの有無と心理的関係性の強弱：高齢男性のパートナー関係」
- 村田　藍（社会福祉法人聖母会聖母病院助産師）
  「セクシュアル・マイノリティにおける生殖補助医療に関する意識調査」
- デール・ソンヤ（東海大学等の非常勤講師）
  「アイデンティティとセクシュアリティ：日本におけるXジェンダー当事者のナラティブ」
- 米澤慶子（京都大学大学院医学研究科博士後期課程3年）
  「生薬と男性性機能障害における系統的レビュー」

中高年以上の私たちには、こうした若手研究者らを支援する具体的方策を考えていく必要があるというだけではなく、若者世代の感覚や実践力から多くを学ぶべきである。そこで5名の「参加報告書」から一部を抜粋し、以下に紹介したい。

近著『マンガでわかるオトコの子の「性」』の売れ行きも順調な染谷氏は、参加報告書において「宗教や様々な文化的背景が異なるだけでなく、多様な学問領域からアプローチされる世界各国の、それも最新の研究を4日間に渡ってシャワーのように見聞きできたことは、大変刺激的な経験でした」と述べ、性教育に関して印象に残ったことを3点挙げている。

1つには、「インターネットの性情報が新たな性教育の課題とされているのは、日本のみならず世界的に共通していること」で、玉石混交のインターネット情報に対するリテラシーを高めていくことが大事である一方で、「インターネットをうまく活用して、若者の悩み相談や交流の場をオンラインで作ったり、参加型で情報発信・交換をしている事例も見られ、日本国内でも是非そのような取り組みにチャレンジしたい」と思ったという。2点目として、「性の快楽について性教育で扱うことについて、若者の権利として前向きに議論」されていることに驚いたという。国内では、若者の性行動自体を文化的によく思わない風潮に支配されているが、「セックスがもたらすポジティブな側面を伝える」諸外国のこうした事例に「若者の人権・性の権利に対する意識の違いや、大人達もまた健康的で

幸せな性を楽しめているかどうかがある」と感じたという。さらに３点目として「保守的な文化的背景を持つ地域であっても、工夫次第で性教育課題にアプローチしている事例」があることに感銘を受けたと報告している。「やり方次第では制限のある環境であっても性教育が実現できる可能性を感じた」という染谷氏の今後ますますの活躍に期待が膨らむ。

トランスジェンダーに関する研究を専門とする大学の非常勤講師デール・ソンヤ氏は、「社会学者による報告は少ない」という印象をもったという（実際のところ、少ない）。「性に関する医療、支援などのプロフェッショナルが集まる場で、社会学者も参加する価値があると思いました。むしろ、参加するべきです。社会学という視点から、性に関する様々な問題が研究されてきました。この研究は、他の分野で働いているプロフェッショナルにとても役に立つに思うのに関わらず（原文ママ）、なぜか学問や大学の壁で、成果がうまく共有・発信されず、袋小路に入り社会に広がりません。社会学の研究も、このような学会に参加することでもっと豊かになると思います」。

学際性を謳う性科学の学会組織でありながら、メインプレイヤーとしては保健医療分野の専門家や研究者が圧倒的に多く、その傾向は国内においてとくに強い。ソンヤ氏のエールに応えられるよう、広く多様な人材と研究成果が繋がっていけるようにする工夫が求められている。

また、高齢男性のセクシュアリティについて研究を重ねている中原氏は、「カップル・夫婦の間の性的問題は世界のあらゆる文化圏において発生するが、今回発表したカップル間のセックスレスについては日本特有の性役割規範に基づく可能性が指摘された。個人の性的欲求のみならず、社会規範によっても意思・行動決定はなされる。セックスがカップルの親密性にどのように関与するのかについては、質疑応答時間に質問者によって、文化圏により比較検討する必要性を示唆された。（中略）国際比較研究はまだそう多くないが、こうして学会会場において他国の研究者と議論したり、他国の研究動向をみたりすることは、今後の研究に非常に大きな影響を与えると思われる。性というテーマに関心を持つ人々が集まった今回の学会において、私の今後の研究目標の詳細が定められた」として、WAS の学術会議らしい一面を報告してくれている。異なる文化・社会背景にある参加者から受ける指摘は国内の指導や助言にはないものもあり、こうしたクリティークや充実した議論を経験することは自身の研究をより豊かなものにする。その意義を十分に感じ取り、自分の血肉にしていける力をもつ中原氏がまた素晴らしいと感じた。紙幅の都合上割愛するが、こうした貴重な経験を綴った報告書は他の奨学生からも提出いただいている。

ミルトン・ダイアモンド夫妻と大川玲子、波多野義郎宇氏

研究者に限らず多様な人材が関わることは、WAS のミッションである「性の健康と権利の推進」にとって必要不可欠である。その意味でユース部会（WAS Youth Initiative）の目覚ましい活動は頼もしく、今回も柳田正芳氏（Link-R 代表／ WAS 若者委員会）が「WAS 若者円卓会議」の企画・運営に携わり、そこには助成金対象者も参加してくださったようである。「つながる、つなげる」をモットーに、今後も若手支援を展開してゆきたい。

遅すぎた WAS 金賞（ゴールド・メダル）受賞

WAS 国際会議では、「性教育」や「ベスト・アブストラクト」などの各賞が発表される。なかでも、生涯にわたる性科学への顕著な貢献を讃える「金賞」は、過去に受賞した某氏に言わせれば「性科学界のオスカー（アカデミー賞）」である。かの有名なキンゼイやマスターズ＆ジョンソン、カーケンダール、故・朝山新一氏など、受賞者の顔ぶれには性科学界の「スター」が並ぶ。その意味では、今回ようやくハワイ大学の恩師ミルトン・ダイアモンド博士が受賞したことについては、むしろ「遅すぎた」感が否めない。インターセックスに関する研究で世界的に高い評価を受けている

博士は、これまでにも GIRES 研究賞（英国：1999 年·2010 年）、マグヌス・ヒルシュフェルト賞（ドイツ：2000 年）、アジア・オセアニア性科学連合賞（2005 年）、キンゼイ賞（米国：2011 年）など、世界中で各賞を受賞しており、世界各国に「教え子」をもつ。80 歳を過ぎた現在も、博士のもとに舞い込む講演依頼は後を絶たない。ユーモア好きの博士は受賞スピーチの壇上でいたずらっぽい表情を浮かべ、「金賞の栄誉に預かり大変光栄に思います。今回の受賞をとくに嬉しく思うのは、教え子である池上千寿子など、先に受賞した教え子たちの仲間入りを果たすことができたからです」と述べた。これには会場が大きな笑いに包まれ、スタンディングオベーションで博士の栄誉を讃えた。

未来への架け橋

ダイアモンド博士からすればまだまだ「ヒヨっ子」の私も中高年層の仲間入りをし、後進に道を譲る時期を意識するようになった。そうは言っても、日本に育ち教育を受けた人たちにとっては、語学力が大きな足かせになるという現実もある。将来的にはハイテクのさらなる進歩によって解決されるかもしれない問題だが、現状で国際社会・学会で活動しようと思えばどうしても語学力（WAS では英語もしくはスペイン語）が求められる。語学力だけでなく、プレゼンテーション能力や異文化対応能力（Cultural Competency）も必要になってくる。

ダイアモンド博士（中央）と WAS 会長（右）

そこで、AOFS（アジア・オセアニア性科学連合）日本事務局を預かる大川玲子（日本性科学会会長）や小貫大介（東海大学）、今福貴子（日本性科学連合事務局長）といった仲間と相談し、国際会議参加助成のほかにも、国際会議参加をより充実したものにするためのワークショップなどの企画を検討しているところである。「教える」というのではなく、仲間とつながり、ともに学び、考えるのがその目的である。こうした場にひとりでも多くの仲間（とくに若手）が参加してくれることが、性科学や性（セクシュアリティ）教育の未来を語り合い、学びあう機会を渇望している私たちの願いである。

※ 2016 年は第 14 回 AOFS 国際会議（3 月 31 日～4 月 3 日）が韓国で開催され、2017 年にはプラハで WAS 国際会議が開催される予定。

JASE 性教育・セクソロジーに関する資料室

資料室について

JASE 資料室は国内外の性教育、性科学等に関する文献資料を収集している開架式資料室です。文献資料の数は約６万点以上、現在も日々、増え続けています。性教育、セクソロジーに関する調査、研究のためにご利用いただけます。人間の性に関心がある方、ぜひ足をお運びください。

資料室利用方法

【閲　覧】必ず事前に電話で予約が必要です（TEL 03-6801-9307）。貸出業務は行っておりません。
【開室日・時間】月～金曜日 10：30 ～ 17：30
【休室日】土・日曜日、祝日、年末年始　※この他、会議等で臨時に休室することがあります。
【コピーサービス】コピー料金は用紙サイズにかかわらず１枚 10 円です。著作権法の許容する範囲で行うものとします。
http://www.jase.faje.or.jp/pub/archive.html

収集文献・資料

統計・調査報告書、ジェンダー・フェミニズム、性教育一般・性教育の歴史的資料、国内雑誌、障害者、セクソロジー（自然科学系、人文・社会学系）、民俗学・文化人類学・風俗、性研究史・性学史、教科書・指導書・学習指導要領、幼児期～青年期、国内学術誌、国際（海外団体資料・海外学術誌）、高齢者・家族問題、文学・評論・エッセイ・文庫・新書、官公庁資料、JASE 刊行物、映像資料、個人論文、雑誌記事、新聞記事、絵本・写真集・マンガ、江幡・篠崎・朝山・石川・ダイアモンド文庫、ほか。
http://www3.jase.faje.or.jp/cgi-bin/search1.cgi